

2013
Vol.22

予算委員会
報告



知事選のため2月・6月の2回開催

予算委員会質疑

毎年2月に行われる予算委員会ですが、今年は知事選前に組まれた骨格予算と、知事選後に肉付けされた予算を審議するため、2度の開催となりました。

2月議会の予算委員会では、森田知事の改選前に暫定的に組まれた骨格予算への質疑であったため質疑内容も2項目のみ。請願の紹介議員となった案件(詳細下記記事)と、産業廃棄物行政の設置の許認可に絡み、県民に信頼される透明性の確保を要望しました。

6月議会では、120万票を獲得し再選された森田知事が打ち出した強気の予算編成を審議。議員活動を当初から取り組んでいる継続政策を、改めて新生森田県政につづけた。

テーマに質疑を行いました。飼いのいない猫を捕獲し、不妊・去勢をしたうえで、地域で見守る「地域猫」が、各地に広がっており、千葉県でも昨年度から手術費の助成がはじまっています。しかし、今年度予算はわずか150万円。取り組みの成果を把握した上で、予算や実施エリアを拡大するよう求めました。

◆◆東葉高速鉄道について 民間社長の登用で 経営改革推進

議員になって7年間、ずっと要望を続けてきましたのでしつこいことは、重々承知のうえでの質疑です。すでに、民間社長を登用した、いすみ鉄道、千葉モノレールなど、一定の成果が上がっており、日本一の負債を抱える第三セクター、東葉高速鉄道においても、民間の活力による経営改革が重要であると考えています。

利用客も増加し、単年度では3期連続の黒字となり、順調な経営改善が見られますが、集中支援が終了する28年度以降は、多額の債務を抱え、自立を図っていかなければなりません。経営の抜本的な改革を担う優秀な人材登用の道を引き続き探ってまいります。

◆◆動物愛護について 殺処分ゼロを 実現するために

野良猫・野良犬の殺処分ゼロを目指すには、愛護センターに收容される犬猫を「減らす努力」と同時に、「増やさない努力」が重要であることを、これまで関わった市民団体の方々から教えていただきました。これまでは、「減らす」施策を中心に働きかけを行ってきましたが、今回は「増やさない」施策を

◆◆放射性物質の測定の 現状と今後の対応について 情報共有の徹底を

江戸川河口のウナギから、国の基準値を越える放射性セシウムが検出されたことから、県内水産物の信頼回復のためにも、定期的な測定を行い、正確に公表していくことを要望しました。

担当した請願の 事業継続決定

「千葉県子どもと親のサポートセンターにおける不登校経験者とその親による相談事業の継続を求める請願」の紹介議員となり、事業継続が決定しました。



経験に基づく親身な相談や、悩みを乗り越えた方々との交流が、不登校児の支援となり、成果をあげていると評価がある事業です。その事業が、平成24年度いっばいで打ち切りになるという決定を、運営されている方々が聞いたのは、24年の12月28日。仕事納めの当日に、相談ではなく「通告」のようなかたちで、一方的に終了を告げられたそうです。

運営されていた方々から、この相談を持ちかけられた時、すぐには信じられないような気持ちでした。10年も共に事業を担って来たはずが、信頼関係を根本から覆すような当局の姿勢に、戸惑い、憤るのは当然のことでしょう。

不登校児の心をほぐすには、時間がかかります。ましてや、精神的な負担増から、もっとも不安定になる新学期の時期に、あっさり打ち切ることができると考えること自体が、利用者の実態を全く把握できていないと言わざるを得ません。

相談を受けて、請願の紹介議員となり、2月議会では、予算委員会、常任委員会でも当局の姿勢を問いました。結果として、25年も事業継続が決定し、責任を果たすことができましたが、新年度から事業内容が一部変更になり、運営されている方々の負担が増加しているそうです。

不登校に悩む子どもたちを継続して支援していくためにも、この問題には引き続き取り組んで、まいりたいと思います。